

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けてある側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

駅前開発は市民の善意の陳情をダシにした施策！ (H-1参照) 誰もこんな箱物は望んでいない！運用で多額の税金が使われる。儲かるのは誰？喜ぶのは誰？

図書館ビルに不要の施設 毎月数千万円の運用費？

キッチンスタジオでは「食育」と称して『160人を使い義務食育と称して全幼稚園児をバスで送迎して「胡麻和え」食べさせる。』小浜市の事例

業務委託費は新発田ガス？

(D1・E1参照)

民間棟が第三セクター(未定)で運用されたら、毎月の膨大な赤字に税金が使われる？

全く議会では議論されないし市民も知らない。

(C1参照)

建築会社の票を狙った、22億5,000万円の駅前開発は「市民のニーズを満たす」と言うが嘘と欺瞞で満ちている。

図書館の移転は補助金目当てのめくらまし。

駅前図書館や市庁舎移転で「にぎわい創出

は出来ない」と商店は断言する。

(A2・F1参照)

アンケート時点では明かさないで今になって出てくるお話！

災害時に市民の命を危険にさらす市庁舎移転

「ハヤカワビル」を(格安で競売落札->市に売却で利益を出す)人物から税金で購入する裏があるのか？

(A2参照)

民主主義にとって、「決定と審議プロセスの明確化+過程に必要十分な情報開示」は最低限の条件です。誰がいつ発案して決めたのかということが明確になることで「民主的」であることが担保されます。百年しばた(私)が問題にしているのは施策の「決定過程、審議プロセスの公開、審議に必要で十分な情報開示(運用シュミレーション等)」が適切に行われていない事です。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名：一二八(読み イチニイハチ) 店番：128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

市庁舎移転・誰の得？

『銀行の負担軽減の為？』『ハヤカワビルの購入のため？』の市庁舎移転

市役所移転の当初から噂になっていたのは「ハヤカワビル」の購入です。ハヤカワビルは十日町市の人物が競売で入手しました。十日町市の競売落札物件を更地にして十日町市に売っています。ハヤカワビルの購入について議会での質問に二階堂市長は「今のところ考えていない」と答えています。市会議員だった人物（設計会社の経営者）から、その人物が市にハヤカワビルを4～5億円で売りがついていると伝えられました。**アンケートの時点ではハヤカワビルは計画に入っていない**。移転が決まった後で購入話が出てくるというのはおかしな話です。これではアンケートをやり直さねばなりません。

新発田市役所内のATMは平成22年3月末で廃止されました。不便になったと市民は嘆いています。それでも、第四銀行の職員は常駐しています。第四銀行の横に移転したら、おそらく職員は常駐しなくなります（推測ですそうならなければいいと思っています）。どなたも御存知の通り、第四銀行はいつも混雑しています。市役所の移転に第四銀行はきっと大喜びでしょう。市民は混雑している窓口に並べばいいとでも思っているのでしょうか？
時は金です銀行で一時間待たせられたら企業の売上は一時間分減ります。新発田市は誰の味方なのでしょう？

市民アンケートで決めたというお粗末な言い訳 市民の命を守れない市役所

高度に専門的な議題にアンケートは不向きである事は言うまでもありません。また、市庁舎の移転を望んでいるのは「市民」なのだという言い訳にもなります。ここにも二階堂市政の「責任を市民に転嫁」するというポリシーが見えます。

アンケートは広報に挟み込まれた用紙で行われました。

「無作為抽出+対面聞き取り」ではなく、誰でも何枚でも広報から剥がして書けるのです（住所氏名は親戚にでも借りなければなりません）。2000強のアンケートで高度な判断が要求される移転が決められました。「新庁舎を考える会」はこのアンケートに異を唱え1万5千筆弱の署名を集めました。当然のようにその署名は無視されました。もう移転は決定したので反対はしません。こんな決め方で大事な市庁舎移転を決めた二階堂政権を選んだのは市民なのです。

第四銀行横は新発田で一番の交通混雑の交差点です。こんな所に移転したら慢性的な混雑がひどくなります。また、NTTのビルは「古い耐震設計」に基づいています。あの高い鉄塔が倒れます。駅前からの大通りは狭く、地震が起こった時には道路が遮断されます。**そんな所に災害時のセンターとなるべき市庁舎を移転させるなどというのは狂気の沙汰です。**市民の命を守れず、エコでもバリアフリーでもない新庁舎が出来上がります。

「市民の声を聞かないで、お仲間企業の声聞く」二階堂市政

「箱物は作らないで教育・福祉・成長戦略に使う」と言う言葉を市民は信じた

市役所は片山市政の元ではほとんど図書館横の市有地に移転することになっていました。先の選挙の結果は片山市政に対しての批判も大きかった。片山市政には問題も多くありました。共産党さえも二階堂市長の応援にまわるほどです。長く議員をしていた二階堂氏は議会対策も万全、取巻きも多く市民に受けの良い言葉を並べます。

しかし今回の2つの案件を見る限り、二階堂市長には「経営者」としての資質が全く感じられません。新発田市という大企業の「経営」を任せられません。企業の経営者だった片山前市長は、無駄な箱物の維持費がいかに市政を苦しめるか知っていました。片山市政が無駄な箱物を作らなかったことは評価しています。今、日本中の自治体がバブルの頃に作られた箱物の更新・廃止の問題で苦しんでいます。


二階堂現政権は、駅前開発と市庁舎移転で新発田商店街に「にぎわい創出」して、このエリアの人口を増やすと言っています。そのために駅前の民間棟にはマンション（ワンルームと家族向け）が補助金で建てられます（その額を市役所は明らかにしていません）。そのマンションに住む「敬和学園大学の生徒」は自動車で学校に通い、大型スーパーで買い物をして休日は新潟に遊びに行く。駅から通勤する家族は決して新発田商店街で買い物はしません。そんな大通りエリアの人口の増加に何の意味があるのでしょうか？

新発田商店街の敷地はウナギの寝床のように細長い上に所有関係が複雑です。住居として使われている上に税制の問題も有ります。箱物を建ててもそこに車で来た訪問者は用事が済めばまっすぐ帰ります。商店は安いものを売るのではなくお客様とのコミュニケーションを商っています。お客様と共に生きているのです。「にぎわい創出」をダシに建設会社に税金を吸わせる政策は間違っています。

二階堂かおる後援会報第5号
平成22年11月9日発行
発行責任者 小島健二

駅橋上化は中止!

もし38億円あったら
教育・福祉・成長戦略
に使うべし!



小学生医療費無料化、
保育料無料化に向けて!

市職員の
総人件費10%削減!

TEL.0254-24-2121 FAX.0254-20-8002
二階堂かおる後援会事務所 ホームページ <http://www.nikaido-k.com>
〒957-0061 新発田市住吉町5-4-357 E-mail nikaido-k@aroma.ocn.ne.jp

「百年しばた」が市民とともに考えた大通り市役所 機能で分散させて問題解決。

大通りの市役所には「議会」「市長室」「政策決定部署」を入れます。政策を公開して、市民の意見を聴く場所になります。3階建て程度にして建築費を押さえます。展望台も必要ありません。市民の訪問も(手続き窓口を別な建物とすることで)少なくなり交通渋滞も抑えることが出来ます。(情報部なども入る可能性があります)

市民が手続きのために訪れる窓口はバリアフリーで駐車場が無料に出来る場所に作ります。現図書館の横が妥当だと考えます。新発田全体を考えたらもっと良い所があるかも知れませんが、市有地であることを重要な条件に候補にあげます。もう一つの災害時の司令塔となるべき機能は全国の自治体での事例を検討中です。

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けている側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

800万円(年)で橋上化は出来た

先の選挙で【「新発田駅橋上化」は箱ものなので「中止」】と言う二階堂市長のキャンペーンで葬り去られました。

6,800万円(年)の経費がかかります。

6,000万円(年)の税収がJRから入ります。

800万円(年)で橋上化は出来た！！

このことを二階堂市長が知らないはずがありません。片山前市長は市役所内部で何度も説明していました。

しかしながら総額「38億円」をチラシの中でうたい、あたかも市の持ち出しが38億円かかるかのように思わせました。

実際には補助金を利用できたので**6億8千万円の持ち出し**に過ぎなかったのです。そして税収を差し引くと、**必要な持ち出し**

金額は年間800万円にすぎません。

私は、この二階堂市長のやり方「市民のニーズを政争の道具にし、事実を曲げてキャンペーンに利用した事」を許せません。

新発田の駅周辺を訪問した時にいかに橋上化について市民のニーズが強いものかを感じました。その後、色々な人に取材して、先の選挙のキャンペーンの様子が分かってきました。この年間800万円で橋上化ができたということも皆知りません。

同時に、市民は「先の選挙で否定されたのだから駅の橋上化は出来ない」と諦めていました。そこで、新発田駅は未来永劫「橋上化」はできないのかと聞いてみると「そんなことはない」と皆答えます。50年先か、30年先かと聞いてみると、皆考え込みます。選挙の争点として葬り去られましたが市民のニーズが消えたわけではありません。市民の声を市政に反映させたいと私は考えます。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12
代表 齋藤真也 080-2049-3853
100@hept.jp <http://www.hept.jp/100/>

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。
ゆうちょ銀行 店名：一二八(読み イチニイハチ) 店番：128
普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

新発田を一つにする要

東と西が結びつき、「月岡温泉郷」が「二ノ丸歴史平和公園」と結びつく。

駅の橋上化は新発田の東と西を結びつけます。

東側にバスターミナルを作ることで月岡温泉郷からの観光客を「しばた」にお招きして平和都公園を歩き、私達の心を知って頂けます。

駅地下道のバリアフリー化は放り出したままの二階堂市長

このまま、何もしなかったらこれは確実に（許されない）公約違反です。

二階堂市長は、橋上化を葬り去る時に地下道をバリアフリー化すると約束しました。

壁の塗替えをしましたが、後はそれっきりです。

まさか、壁の塗替えがバリアフリー化ではないと思うが、今後の「ご予定」をはっきりさせてもらいたい。

選挙のために市民のニーズを握り潰しただけでなく弱者の為の約束を破るのは二重の裏切りと言われて当然です！

橋上化はJRの為と言う嘘

JRは橋上化で売上が上がりはしない。選挙で流された悪質な嘘！！

市民の声を聞いていくと何度か「なぜJRの為にカネを使う」と言う声を聞きました。おそらく二階堂市長の選挙キャンペーンで繰り返された言葉かと思えます。考えてください。橋上化をしてもJRの売上は増えません。企業であるJRには何も橋上化のメリットがないのです。市民のための政策なのです。

板山踏切は危険な踏切

高校生の安全を考えるべきである

板山踏切を通過して多くの市民が行き来します。

踏切は狭く、自動車がすれ違うのも大変です。そんな踏切を駅から降りた高校生は毎日通ります。雨の日など危険極まりありません。

橋上化は東側の道路を通過して安全に通学することが可能になります。

One Shibata

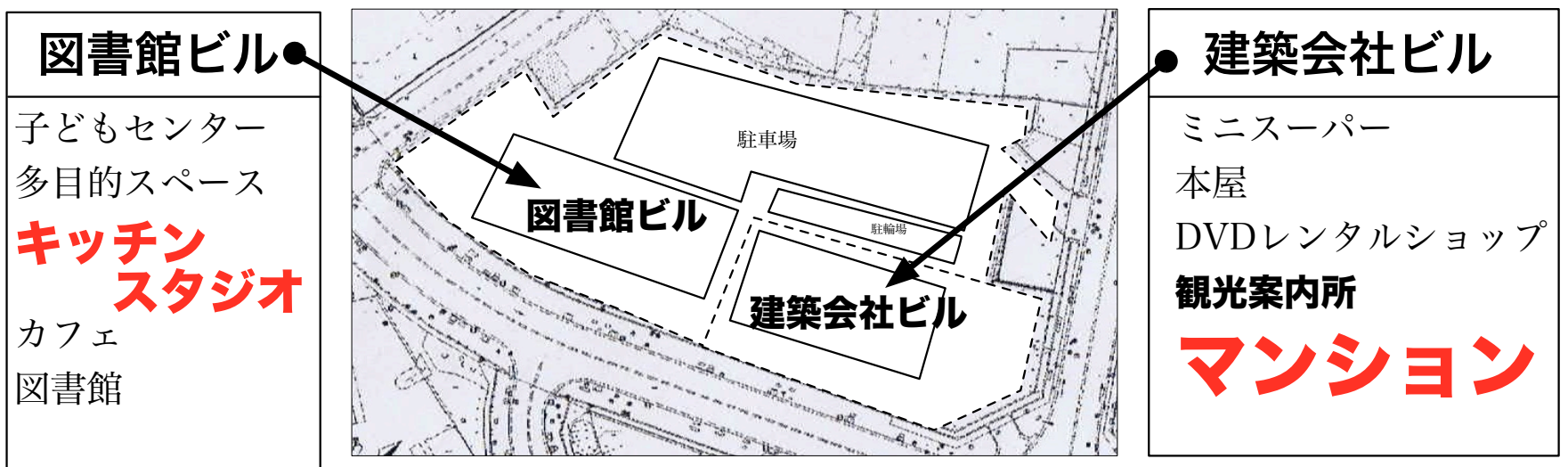
市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局の一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けてある側の数人は別です) そんな声は全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

民間棟で駅前荒廃する

図書館より民間棟のマンションが大きな問題！

このマンションは家族向け、敬和学園の学生寮です。入居者は高い所からお諏訪様や商店の町並みを見下ろします。商店街の中に溶け込んで共に生きるということはありません。学生は新発田を離れます。



「百年しばた」が市民の声を聞いて考えた駅前施設



○必要のない(稼働率の少ない)施設は削る

そもそも、スタートの陳情は「高校生などの電車を待つ人達の居場所がほしい・観光案内所が欲しい」というものでした。「子どもセンター・多目的スペース・キッチンスタジオ・カフェ」などはどこにもありませんでした。これらの施設は「見栄」と「運用費を企業に渡す為」のものと思っています。(D-2、E-1参照)

○駐車場は出入口を広く交通渋滞を引き起こさない

市役所の案では駐車場の入口が大通りに面して狭く、交通渋滞の可能性が高いものです。私達の案では広く安全が高く大通りに面しているので安全で交通渋滞の心配もありません。

○駐輪場は駅利用者にも開放

どちらにしても、駐輪場がこの施設にあると駅利用者が止める可能性が高いと思います。(利便性を保ちながら)禁止することは不可能に近いので思い切って広く取り、駅利用者にも開放します。これにより駅利用者の自転車の利用が促進されます。エコで地球にやさしい新発田市になるのです。

○民間棟(建設会社ビル)は不要

新発田商店街の住人の数を増加させて、商店街の活性化を図ろうというのがここにマンションを建てる「大儀」です。しかしここにマンションが建って住人が増えても、その住人は新発田以外からの移住者です。高い所からお諏訪様や商店の町並みを見下ろします。商店街の中に溶け込んで共に生きるということはありません。そのマンションの住人のためにDVDショップやミニスーパーが作られます。地元住民は皆反対しています。もう一つの民有地を市は購入しています。こちらの建築外者の土地も購入するべきだと思います。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

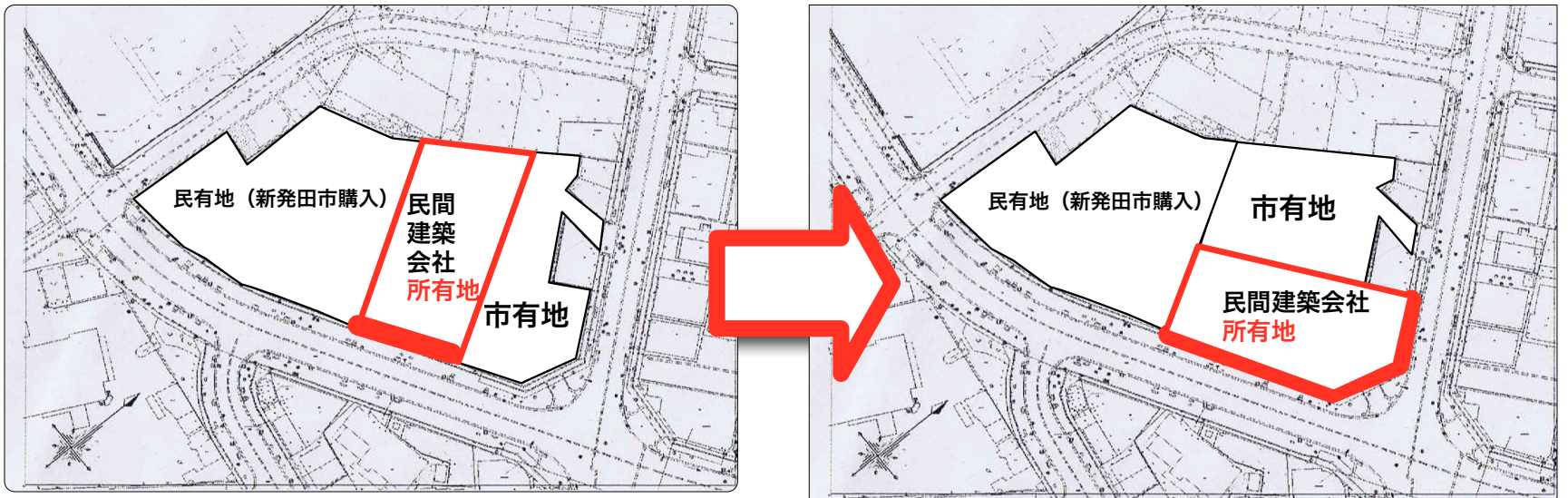
等価でない土地交換を等価という非常識

この建築会社の土地と新発田市の土地は同じ面積で交換される。

面積が同じだということで建築会社から市は一円ももらわない。同じ価格ではない！

新発田市が交換前と後の土地の価格を公表しないのが証拠。民間所有地は売ったら大儲け！

同じ価格だというのが、土地の価格は面している道路の路線価と長さで変わる。交換後「市の土地は道路に面しなくなり」大きく価値は下がる、この建築会社の土地価値は上がる。



議会は二階堂市長の説明を真に受けて「まあ、いいのではないか、だいたい同じなんだから」と言っています。自分の財産だったらそんなことは言わないでしょう。市民の感覚からしたら驚きです。

建築会社ビル第三セクター運用の疑惑

新発田市とこの建築会社は駅前総合施設の開発に互いに協力する包括的な契約を結んでいます。一般質問でも出ていますが、第三セクターの可能性に関して市長は否定も肯定もしていません。業務委託ということも考えられますが、こちらの方は二階堂市長は否定的です。**第三セクターの赤字は税金で補填される！**

最近では大阪市の道路公社が破綻して330億の赤字を市が負担しました。第三セクターで運営した場合、「建築会社のビルにテナントがはいらない、マンションに空き室がある、運営で赤字が出る」そういった場合、税金で補填されます。建築会社にとってはリスクなく休眠地が固定収入源になるのです。税金はいくら使われるのでしょうか？

**このような疑惑を避ける為にも建築会社の土地を買って
建築会社ビルによる民間施設を中止するべきと考えます。**

民間ビルに「観光案内所」はおかしい！

DVDレンタルショップって何と時代錯誤なんだろう。新発田じゃ最安値のDVDショップがあるから誰もいかないと思うんだけどなあ。

本屋さんで生き残っているのは、よほど「巨大なお店か」「学校営業」に力を入れているところだけ。大学の学生寮を誘致するが、市内の不動産屋さんはどう思っているのだろうか。

家族向けの住居は新発田商店街の人口を増やす目的。ここに寝に帰って新発田商店街にはまるっきり行かない住民が住んでどうなるんだろう。(A-2参照)

民間建築会社ビルに「観光案内所」が入っているは疑問なんで観光案内所を民間に委託（またはテナントそして入居）するのだ！なんで、図書館のほうに入れられないだろうか。そもそも観光案内所は何か物売って利益の出る種類のものではない。図書館ビルに入れれば必要のない税金が使われることになる。

このエリアには昔スーパーがあつたりしているけど上手く行かなかった。そんな所にミニスーパー作って誰が買いに来るのだろうか。

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けている側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建てたしまうできなくなった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

図書館戦争

新発田市民の99%は図書館に関心が無い。

せいぜいで無料の貸本屋、冷暖房が効いて暇な人間が新聞読みに行くところだと思っています。それが新発田を歩いて知った事実です。

日本中で「ごりっば」な図書館が争って建てられています。立派な図書館があることが立派な「市」の条件であるかのごとくです。開架数、年間利用者数、ネットに接続される閲覧室、情報発信のためのしかけ、イベント。調べてみればいくらでも出てきます。

そんな戦争は不毛です。スペックで図書館を語っても意味は無いのです。どんな高性能の自動車でも運転手の能力以上には走れません。どんな立派な箱物がたっても市民の役に立たなければ意味はありません。駅前図書館は市民の居場所になれるでしょうか？

駅前の総合施設は建築会社の為に建つのですから建ったて構いません。市長と建築会社のいいように建てればいいのです。(G1参照)ほとんどの市民は図書館を「無料の貸本屋」としか見ていないのです。大事なものはこれからののです。

図書館は情報発信の要になるべきだと様々な論者は言います。では、私達の情報とは何でしょうか？

それは「しばた」の地域の「言葉と物」です。

散逸していく「言葉と物」を集めていく場所。それこそがこれからの居場所(図書館)になるのです。

自分のルーツ(根)を知る場所として3つの施設を提案します

新発田は多種多様な文化の集った街である事を誇りに思う。駅前の図書館は「無料の貸本屋」でいい。しかし本当の文化(市民の言葉と物)を継ぐ施設(想い)は必要だ。それこそが、「百年しばた」の夢。何年かかっても実現したいし共有したい夢です。

1) 二ノ丸歴史平和公園

平和都市新発田を世界に発信

新発田十六連隊のことを知っていますか？私は父から何度も聞きました。残念ながら子どもには言葉としてしか語れません。新発田には世界に誇れる貴重な財産があります。

西公園は私達の先祖の想いが込められたモニュメントなのです。いつから、市民は私達を守るために死んでいった兵隊さんに手を合わせる事を忘れたのでしょうか？僕が小さい頃は両親と西公園で死んでいった兵隊さんに手を合わせていました。

自衛隊では来春「白壁兵舎」を一般公開します。旧軍時代の建築物です。素晴らしい事です。文化財としての価値の大きな建築物です。中には寄贈された遺品を見ることが出来ます。

二の丸病院跡地に、この地で人々が生きてきた事を伝えられる施設を建てることを提案します。

新発田藩の文献研究の発表の場とします。博物館、図書館、文書館の機能を持たせます。

市民の憩いの場でありながら一級の観光資源として世界に平和の大事さを発信します。

創設には何年かかってもいいと思います。私達はどこからきたのか、そしてどこへ行くのか？そんなことを思い散策ができるエリアにきつと育てることが出来ます。

2) 月岡温泉郷展示館

月岡郷の歴史を語る物を展示

月岡は合併で新発田に入りました。私は市民の言葉を聞く為に一日「月岡温泉郷」を歩きました。既に廃業された温泉が多く、廃屋がいたるところにあります。

月岡温泉郷では『「グローバル」なサービスを提供する旅館』と、『サンゴ礁のように肩を寄せあっている旅館』が住み分けています。私達は、「月岡」である誇りを大事にしなければなりません。他者の誇りを重んじることで私達は一つになれるのです。

ある古い旅館の女将さんとじっくり話をした時に、ここは新発田の一部ではなく、「月岡」なのだと感じました。彼女の話す昔の月岡は素晴らしいものでした。新発田の商店街を大事にする様に月岡を大事にしたいのです。

廃業した旅館を使って何とか散逸していく「言葉と物」を集めて行きたいと思いました。廃業した旅館を使い、観光案内所と併設して月岡の文化を知る施設を作ること提案します。

3) 金塚アーカイブセンター

現在の市有地を有効利用、新発田の「物」を集めネットで配信

金塚エリアを歩いた時に感じました。金塚の工業団地には太陽光発電の施設が建ち、これからの可能性を大きく感じました。残念なことに金塚小学校は生徒数が足りなくて廃校になりました。そんな土地と設備を使って新発田の文化センターを作ってはどうか？

現図書館にある新発田藩の文献やこれから集まるであろう「物」を集約するのです。

駅前の図書館に貸本の部分を持っていった後に現図書館を「新発田藩の文献研究展示施設」とすると聞きます。それは予算をかけないで小手先で文献の研究を重視しているような振りをしているだけです。

十分に広い施設でゆっくりと研究をする。その成果はネットでの発信を行う。二の丸平和公園でも随時展示を行う。そのためには十分な運用の予算が必要です。そしてこの研究所は村上や山北の文化も射程に入れ、長岡以北の文化研究と発信の場になります。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名：一二八(読み イチニイハチ) 店番：128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

図書館と駅前施設に関して

ハローワークを駅前に！

子どもセンターとキッチンスタジオがいかに市民のニーズと関係ないかは別に記載します。そのスペースにハローワークを入れていただきたいと思います。(E1参照)

新発田では多くの高校生が卒業後就職します。そんな子どもたちが現在のハローワークに行くのにどれだけ大変かお分かりかと思えます。子どもたちは社会に出ていって大変な困難と向かい合います。そんな時に図書館は人生の教室になるのです。

またリストラされた市民にとってもいいものだと思います。失業してハローワークに行くのは人生のちょっとした寄り道です。僕も何度も失業してハローワークに通いました。そんな時に図書館で素晴らしい本と出会えたらいいなと思えます。

高校生や市民のシェルターに成りうるのだろうか

市民は大きなプレッシャーの中毎日の生活を過ごしています。経営者は社員への給料を払うために命がけです。社員はいつ首になるか感じながら、他の社員が首になることで自分の命が助かっています。子どもたちはいじめの恐怖に怯えながら他人の目を気にしています。そんな市民の「保健室」は作れないでしょうか？僕は小さいころいじめを受けていました。旧図書館の閲覧室に行って本に囲まれることが安らぎでした。**自分が自分であることに怯えないで「生きる勇気をもたらえる場所」僕はそれこそが「市民の居場所」であり、「図書館」だと信じています。**

駐車場を無料にするのは無理！（利便性が犠牲になる！）

市は駐車場を無料にすると約束しています。車を止めて電車で新潟に行き帰って来てから本を一冊借りた人は無料になるのでしょうか？5時間調べ物して、本を借りないで帰る人は無料になりますか？受付で1時間おきにハンコもらうのかなあ。具体的な方法を打ち出さずに進め、結局は利便性を犠牲にする事になるのでしょうか。本当にどうするのか教えてもらいたい。

図書館の記念碑を駅前に移設する愚行

坪川洵平翁が市民に託したものは建物や石碑ではありません。新発田の図書館はまだ社会が貧しくて市民が本も買えない様な頃に坪川洵平翁によって寄贈されました。今も残る記念碑には以下の様に刻まれています。

此处にお越しの方は
SEEK
THE LIGHT OF TRUTH
THE WAY OF HONOUR
THE WILL TO WORK FOR MEN

次の事を探求しなさい。
真理の光と栄光の道
人々の為に動こうとする意志

この記念碑は「初代図書館の
有った場所」こそふさわしいと
思えます。駅前などではなく文
化会館の正面の丸い芝生のエリ
アこそが最適だと思います。



学習室はあらゆるユーザーの居場所になってもらいたい。

「駅前図書館は、電車に乗り遅れた高校生勉強する為に作る」と言うと市民は大笑いします。いったい、毎日何人の高校生が電車に乗り遅れているのでしょうか？そして図書館があるとそんな子どもたちが皆勉強するようになると思います。市民は学習スペースを作っても決して勉強をするようにはならないと言っています。新発田高校にも南高校にも学習スペースは十分あるので、勉強する子はそこで勉強します。全くお粗末ないわけです。

しかしながら、駅前には高校生がいる場所がないのです。そんな子どもたちの居場所を作るのはいいことだと思います。スマホを充電できたりゲームをしたりしても怒らないでいさせる場所が必要です。また、水原や村上から新発田の予備校に通っている子もいます。そういう子を締め出すことはしないでください。新発田市民でないかもしれませんが、いつか家庭を持つ時に新発田を選んでもらいたいからです。

囲炉裏カフェや飲食店に関して

市の施設にカフェや飲食店は必要ありません。例えば文化会館などにも「飲食のコーナー」は入っています。そういったお店を自治体が運営することになると赤字を補填することになります。税金を利権として食べ物にする企業が大喜びです。そんな企業は二階堂市長の応援団になります。口利きをした市議員は二階堂市長の応援団になります。そして市民の税金は空っぽのカフェに消えていくのです。隣に建築会社のビルも立ちます、そういうお店のニーズが有るといならば家賃を払ってお客さんからの売上で営業すればいいのです。**公共施設に必要なのは、給水器や自動販売機を完備して、お弁当を自由に食べながら、本も読め、勉強もできる広いスペースです。**例えば、会社でリストラされた旦那さんが家族に言えないで施設に来てお弁当食べて本を読む。ハローワークで職を探しながら図書館によって自分の未来を考える。そして生きる勇気を見つける。素晴らしいですね。家に帰ればインスタントコーヒーが飲めるのに1杯500円のコーヒーを欲しがるとい市民がどれだけいますか？僕も喫茶店に行くけど、それはマスターとおしゃべりが楽しいからなのです。**観光客も「新発田の事を話してくれるお店の人」のいる喫茶店や食堂に行く方が楽しいのです。そんなお店を紹介してほしい。**

ワークショップ・審査会に関して

私はワークショップには参加していません。もっと長い時間をかけて市民の声を本当に反映させることが出来るようなものだったら喜んで参加しました。

初回に入り口で「百年新発田宣言」を配っていました。だいたい半数の参加者が市の職員に知り合いのように挨拶していきます（と見えました）。市で動員したのでしょうか？**市民の意見を聞くはずのワークショップに市の意見に賛成する人を集めたらまるで「電力会社の原発説明会」の様です。**

そもそも、予算も場所も決まった後で行われるワークショップ等に何の意味があるのでしょうか？

この開発で利益を得る会社の社員はワークショップに出れば休日出勤代ももらえるでしょう。開発はそれらの企業に利益をもたらすでしょう。しかし、そんな企業の奴隷の方々（社員）は30年後に補助金が落ちてこなくなった時に真っ先に首を切られる事を分かっていますか？そんなワークショップで「市民の声を聞いた」とアリバイ作りをしても市民は見抜いています。**使えない施設ができ、市民が怒った時に「市民意見に従ったのだから責任は市民にある」と二階堂市長には言われたくない！！**僅かな人数を集めて市民の意見を代表しているなどと言われたたまたまもんじやない。責任転嫁の道具として使われること確実です。

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けている側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

キッチンスタジオを議論する!

幼稚園児への「義務食育」に毎月数百万円の税金を使うことが妥当であるかということ議論しなければなりません。
政策がそれだけのコストをかけて行うだけの価値があるか『**選択の問題**』なのです!

キッチンスタジオの一番の問題は稼働率をどう上げるかということです。毎日稼働しなければならないので『**全市の幼稚園児をバスで送迎して、料理の実習をさせます。160人の食生活改善推進員が業務委託されています。その内容は、幼稚園児に「白米、味噌汁、胡麻和え」を食べさせて栄養学の勉強をさせる**』ことになります。(小浜市の事例 E-2参照)

キッチンスタジオの運営・業務委託方法に関して、市は一切の計画もコストの試算も公開していません。建てた後で公表するのでしょうか?これまた驚くべき事です。

市からは「キッチンスタジオの運営、業務委託先(新発田ガス?新潟料理専門学校?)」の公開はなく、運営やコストに関しての議論がないままに必要だと言ってワークショップは進められています。確かに(年数回であっても)子供の頃から美味しい出汁の味噌汁の様な食事を体験させることはいいことなのかもしれません。しかし、議論なきままに進めることには反対です。

キッチンスタジオではなくハローワークを

駅前施設にはこのキッチンスタジオの他に子どもセンタ(子育ての支援機能)が入ります。

新発田商店街の人口を増やすことが目的の様説明されています。これも本末転倒な話です。

新発田商店街はウナギの寝床のように細長く、所有関係が入り組んでいて今の若い夫婦のニーズに合いません。先新発田商店街の人口を増やすことは困難であることを市民が一番良く知っています。ドーナツ化現象は小中学校の統廃合が起こります。何らかの施策が必要となります。(A-1参照)

子どもセンター(子育て支援)は地域に分散されて運営されるべきなのです。幼稚園や保育園にその機能は委託されています。その方向を強化すればいいと思います。新築の家に夢を持った夫婦が入り子どもが生まれたら近い所に子育て支援機能を持った施設があることは重要です。

「子どもセンター」として駅前施設に統合して大規模になると相談する人間や子どもと密接なつながりができにくくなるでしょう。

駅前施設には、ハローワークを入れていただきたい。(D-2参照)

本当に健康の為の食事を必要としているのはキッチンスタジオに行けない人たちです。

朝早くから夜遅くまで働いて子どもに夕食を作ろうと思ってもその時間もない。子どもは毎日ファーストフード店や、インスタントラーメンで過ごす。配偶者に先立たれた独居老人も多い。食育とは毎日の食事だと私は考えます。

そしてそんな人達に「毎日の食事の大事さを伝え」「料理を効率的に行う技術」を伝える事は重要です。そのような施策は建物を建てたところで出来るものではありません。「食事指導」と呼ばれるものがいかに効果が無いものかは健康診断などで受けたことのある人にはよく分かるでしょう。私は若いころ、「300時間の残業一日4食の牛丼や弁当と言う生活」から「糖尿病」と診断され、「栄養学を学び」ました。そして、毎日食事を作っています。本人が気づくことからしか正しい食事は見つかりません。箱物や強制的な食事指導は本人の心を変えることは出来ません。そして毎日の実践には大変なコストがかかります。生活を変えることは困難な事です。私はいつか分かりませんが死ぬ前の10年を元気で幸福に生きられるように今も道を探しています。そして多くの人と心を共有したい。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

現在の施設で充分！

西新発田にある新発田ガスの施設、地域交流センター、学校には調理実習室があります。

料理が健康にとって重要であることは論を待ちません。料理の技術が広義の食育に入りますが技術の習得は現在の施設で十分間に合うと思います。学校教育のカリキュラムにも食育は入っています。幼稚園児に講義しても大きくなるまでに忘れます。

料理という高度な技術と栄養学を理解するためには高校生レベルの知力が必要です。小浜市のように無理やり幼稚園児を動員してニーズを偽装するのはナンセンスです。

また、食についての講演会も重要でしょう。市民への啓蒙活動は重要ですが、あまりうまく機能しません。一番伝わってもらいたい市民に語りかけることが出来ないからです。最初に政策があり、市民の本当のニーズをリサーチしないままに適当にセンセイを呼んで話させる。無駄な事をしているようにしか見えません。もっと市民の話を聞いて考えるべきです。

食は市民をつなぐ文化である、世代をつなぐ、しかしノスタルジーとは無縁**かつての私たちの食卓。**

3世代の食卓があり、食事の用意を「お婆ちゃん+嫁+孫達」でおこなう。

食卓には老人、ミドルエイジ、青年、子どもそれぞれに必要なおかずが並び、子どもも老人のおかずをつまみ、季節の物を料理した。それぞれの家族はそれぞれに必要な栄養が違い、料理も違う。そして互いの好きなモノを食べ、楽しく食事をする。子どもたちは自分の未来の姿を親やおじいさんに見て、大人たちは子どもだった頃を思い出す。

小さいころおやじが食べていた塩辛（嫌いだった）を今では大好物。好き嫌いは大事なことです。

隣近所でおすそ分けしたりして、私達は互いに寄り添って生きていました。

今そんな食卓やコミュニティは失われました。

もう昔には戻れません。では何が出来るのでしょうか？

私は今も「答え」を探しています。

どこに答えがあるかわからないけど、絶対にキッチンスタジオにはないことは確信しています。

小浜市を検証する

生涯食育、義務食育は果たして市民を幸福にするのか？箱物のためのイベント

キッチンスタジオの運営は市の計画の中で文書化されていません。ここにも一番大事な事「運用のコスト」を隠したままに箱物を建てるという二階堂市政のポリシーが見えます。ここでは、日本中の自治体がお手本にしている

「小浜市」の事例を検証します。ここで参考にしている「食育現場からのメッセージ」と言う本は箱物を作るための行政向けの教科書です。実に興味深い記述が並んでいますが私には賛成できないものばかりです。おそらく、日本中の箱物を建てたい自治体が多く買うような本でしょう。出版会社は生き残るためにこういう本を出します。

（「食育現場からのメッセージ ぎょうせい 2007年」より）

この（小浜市の）キッチンスタジオを利用して、小浜市は平成15年11月に、市内の幼稚園・保育園に通う年長児全員を対象に、料理教室を開始しました。小浜市独自の食育活動として、今ではとても有名になった「キッズ・キッチン」です。その頃の様子を、中田さんは今でもよく覚えています。

「子供たちが大勢、バスでどんどんやってきました。もちろん、お母さんも一緒です。」p94

ここでの基本的なメニューは「白いご飯」「みそ汁」それに「ごま和え」です。あえてシンプルにすることで、だしのおいしさや食材のおいしさを味わうことができるのです。

「キッズ・キッチン」は、市内にある幼稚園や保育園の年長児全員を対象にした料理教室です。もう一度念を押しますが対象は希望者だけではありません。**全員が対象です。そして、これは市が主催する料理教室ですので、参加費はもちろん無料です。**p95

「キッズ・キッチン」のプログラムを体験した子供たちは、当然のことながら、**好き嫌いが少なくなったり、食べ物に関心を持つようになったり、食べ物に対する関わり方に大きな変化を見せています。**p97

現在、小浜市の食生活改善推進員は160名ほどいますが、そのうち約60名が「グループマーメイド」という民間組織を結成しています。「グループマーメイド」は、「御食国若狭おばま食文化館」のキッチンスタジオで、一般の人も参加することができる料理体験の指導者として、**その運営を市から委託されています。**p97

1) 幼稚園児の料理教室???

箱物を建てるとその運用が常に問題になります。

小浜市でも箱物を建てて一番の問題はそこだったろうと思います。「ニーズがなければ作ればいい」と言うのはマーケティングの基本です。売上を上げるための企業の行為である限り問題はありませぬ。商品が売れて上がる利益がストッパーになるからです。しかし、行政がそれをやるとこういう問題が起きます。

幼稚園児を「義務食育」と言う名目で強制的に集め、ご飯、味噌汁、胡麻和えを作り食べさせる。この運営費はいくらになるのでしょうか？無論160名の「食生活改善推進員」の人件費も入りませぬ。やることは結構ですが、問題は対費用効果です。

果たして、胡麻和えを作って食べることで市民全体の健康は増進されるでしょうか。

2) 好き嫌いは大事なことである

私は「好き嫌い」は大事なことだと思っています。

人の体は80兆個の細胞からなり、調和しながら毎日変わっていきます。それぞれの「個体」にとって必要な栄養素は異なります。体が大きくなろうとした時には「肉や魚」を食べたくなります。決してその逆ではありません。体に用意ができていない時に「肉や魚」を食べさせても排出されるだけなのです。（それは体にとって大変な負担になるので好き嫌いが起きます。離乳後～中学校の期間は個体差が大きく「学年」と言うスパンで子どもを大きくすることは無理なのです。早生まれと遅生まれの子どもの差は大きくそれを一括に集めて教えるということには問題があります。

3) 幼稚園児は覚えているでしょうか

食べ物の記憶と言うのは毎日継続的に食べるものから得られるものです。理屈をいくら教えても幼稚園児は覚えていません。年間に何回行われるかわかりませぬ。**このような施策は市民の健康増進には役に立たず税金を委託業者に渡すための政策にしか見えませぬ。**

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けてある側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

商工会議所が考えた駅前開発？

**商工会議所の会員企業の皆さんにお聞きしたい。
本当にこんな駅前開発、市庁舎移転で
「しばた」の未来は開けるとお考えですか？**

商工会議所は地元企業の意見を代表して行政に提案する大事な組織です。新発田の企業が世界に商品を作り、その売上を雇用、税を通して「しばた」は維持されます。無駄な税金の支出は商品の単価を上げ、売上を圧迫して地元企業の経営を圧迫します。

駅前の箱物は毎月数百万の税金を使います。経年度変化の補修、取り壊し経費を入れたらゆうに数千万から億の単位の経費が毎年かかります。運営費の試算は市役所から出ていません。一般の企業だったらまず最初に運営費を出して、建築費を償却期間で割って、やるかやらないか決めます。ところが今回の計画では、建築が始まるこの時まで明らかになっていません。企業の経営者には考えられないことです。

商工会議所の組織内での綱引きや閥闘争はあるでしょう。それぞれの企業の立場も分かります。しかし、これから来る社会システムの変化(TPPに代表される)にすべての企業はさらされます。否応なく、ビジネスロジックの変更を迫られます。その波に勝てない企業は倒産します。そして市民の生活は破壊されます。私はこんなことをしでかす商工会議所が恥ずかしい。

商工会議所に求められているのは「行政に対して原価意識をもった提案」をすることだと信じています。

『二階堂市長はいい人なのだが取巻が悪い。こんな開発をしたらきつと巻き返しが来る。』と言う話を聞きました。駅前開発の起案～検討の過程を取材していくと「商工会議所会頭 佐藤哲也(新発田ガス社長)」の名前があがってきます。二階堂市長とは盟友だと聞きます。

なぜガス代でイベントを協賛したり広告を出す？

新発田ガスの広告料金(フリーペーパー、各種イベントの協賛)は私達企業や市民から吸い上げた「ガス代」から出ています。新発田ガスや(原発で有名な東京電力のような)公共企業では「かかった経費」から「ガス代」を決めますから運営のコストがいくら高くなっても構わないのです。一般企業は毎日営業して得た売上から家賃を払い給料を払い仕入を払っています。新発田ガスは独占的に「ガス代」を得ています。

**メディアを黙らせるための広告出したり、
イベントするなら「ガス代」安くしろ。
当たり前前の市民の思いだ！**

基本料金
0~18立方mまで

北陸ガス : 546.5円

新発田ガス : 997.5円

利益が保証されている公共企業はコスト意識を持ち、無駄な支出を抑えて「住み良き日本一新発田」の助けにならなければならない。新発田の人口減少を抑えるためにもガス代のやすさ日本一を目指せ！頑張り新発田ガス！

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。
ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128
普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

役人に成長戦略は無理

新発田商店街を歩くと額に入った昔の写真が飾られている。本気でそんな施策が新発田商店街の売上を増加させると思っているのだろうか？

新発田には独自の技術を持ち世界で戦っている企業があります。そんな企業の経営者は社員を家族のように想い市民の雇用を守ります。

ガス会社や建築会社が補助金を受けて地元の雇用を守るビジネスモデルは30年を待たずに崩壊する。新発田以外に本社のある企業は雇用調整のために平気で工場や営業所を閉鎖する。「しばた」に本社を持つ企業が必要なのです。

新発田商店街の商店は「物」を売っているのではなく、人と人とのつながりを売っています。新発田商店街を歩くと額に入った昔の写真が飾られている。また100円市が新発田商店街では行われる。本気でそんな施策が新発田商店街の売上を上げると思っているのだろうか？

そしてそれらには税金が使われているのである。(補助金事業かも知れないが…)商店の人に聞くと1000円で写真を拡大印刷して額が借りられるという。その写真で売上は上がるのかと聞くと、皆笑ってそんな訳あるはずがないと答える。付き合いだそう。商店街のCIのつもりかもしれない。

市の役人は自分たちがなにかやっているアリバイのために「文化人や大学センセイ」の提案に従って施策を行う。

「文化人」の方々にも生活があるから市の予算に食いつかなければならぬだろう。しかし、商店に役に立つ企画を考えていただきたい。役人は自分の金を使うつもりで施策を検討してもらいたい。

「十二斎市」と言うイベントがあるがお粗末な限りである。表面的に名前だけ借りて行われるイベントでしかない。(参加した商店の人と話したが、市は「税金使ってやってやる」と思い、全く売上が上がらないのに商店は付き合いで出店している。)新発田商店街にはチャレンジショップと言われる店がある。一種の実証実験なのだと思うが、全く赤字(のはず)である。

チャレンジショップが家賃・人件費を払って仕入れて売って利益が出るはずがない。税金が全て補填に使われているのだろうか？敬和学園が受託しているのだろうか？**そんなお店が増えて新発田商店街の空き店舗率を減らして何になるのだろうか？そんなお店に経費かけるなら頑張っている商店にお金あげた方がいい。商店は怒っている。**

かわいそうなのはそこで働く「起業を夢見ている若者である」当然給料は安く押さえられているだろう。そして人生で一番大事な(挫折を繰り返して学ばなければならない)時期をぬるま湯の中で過ごすのである。彼らの未来をどう考えているのだ。まさか定年までそんなお店に居れるわけであるまい。

新発田商店街には古本屋さんが2軒あったがいずれも閉店に追い込まれている。ネット通販なども試みたが家賃を払って仕入れていたらお店は維持できなかった。

僕の友人は大学を出てチャレンジオフィスに入って技術者として頑張っていたが生活が安定しないで結局は一般企業に就職後結婚して今は幸せである。

大体、大学出たばかりの人生の一年生が起業などしても市場の嵐のちいように使われるだけである。私も20代の後半、東京で起業してすべてを失った。しかしその体験は貴重なものだった。そして「しばた」で53歳にして今も起業中である。

ほとんどの起業は入社した会社で学び、市場を知り、アイデアを持ち、仲間を見つけ、世界に飛び出すことで生まれる。そして何度も挫折を繰り返す。

そして自分であることを諦めない人だけが何かを見つけることが出来る。

頼むから何もやらないでくれ。税金が無駄に使われているのを見るとやる気が無くなる！

僕の体験が語る『お役人様の傲慢-1』

2011年春、新しい仕事を始めることになりNICOのオフィスに入りました(朱鷺メッセ11階)。4人の技術者を雇い一緒に働くためのオフィスを探して審査を受けて入りました。そこでの審査や面接のことを忘れることが出来ません。お役人や「委託を受けた老人」が私の技術を見ることもなく侮辱的な言葉を吐くのです。飛び込み営業で新潟の企業の皆さんとつながろうと思いき300件の企業を回りましたが、その行為を「どぶ板営業ね、勝手にやればいい」と吐き捨てるように言ったのです。結局その営業で新潟市内の会社さんから新規の開発を請け負うことが出来ました。同じフロアで補助金を貰うために夜遅くまで請求書をまとめている仲間のことを思い出します。

余りに不愉快だったので、新潟市の「e企業館」と言う施設に移りました。その時は友人が東京の大手企業からの受注のワーカーとして入ったのです。「e企業館」では審査会で作った事業計画を杜撰だということで「審査会をなめるなよ、売上予定の1000万円ができるのかここで宣言しろ」と言われました。毎日3-4時間の睡眠でオフィスに泊まって仕事を行いながら書いた計画書に対しての言葉なのです。実際その年度は1300万円あがりました。余りに不愉快だったので期限が来る前に退去しました。

役人は、税金を使わせてやっているのだから感謝しろと言う態度で私達の起業に接します。そして大学の教授や顧問の企業経営者(二世で起業の厳しさと孤独を知らない)は共感すること無く侮蔑的に私達を見ます。

私の会社は市内のお客様お仕事と国体の集計システム(5年連続で受注)「新潟県の高校の美術書道展出版システム」が順調に動き、スイミングクラブの会員管理を開発中です。

お役人や大学のセンセイ、文化人の方々はなぜあんなに偉そうなのでしょうか？

税金で飯食っているだけではないですか。

企業の経営者は体張って、サービスや商品売って利益上げて税金払っています。その金で給料もらっているのです。

不愉快を通り越して呆れるのも通り越して、何も言えません。

僕の体験が語る『お役人様の傲慢-2』

2006年、私は大柴町の「平野屋」と言う会社の片隅でソフトを作っていました。ある会社を通じて、新発田市のホームページの修正の見積りを依頼されました。地元企業に仕事を依頼したいと言うお話でした。入札の条件にそれが入るならば本気でやらなければならないと思いました。まさに天にも昇る気持ちと言うのはこの事でした。打合わせを重ね、3ヶ月をかけて様々な資料を作りました。最新の技術の情報、その当時の市のホームページの全てのショット、綿密な開発計画。求めに応じて、「新発田市ホームページの機能仕様書」の元になる物も作りました。当時チャレンジオフィスに入っていた僕の友人も一緒に見積もり作りに参加してくれました。希望に満ちた子犬の様に思いつき尻尾を振っていたのでした。今思えばみじめな物です。入札の直前になって、金額が優先になったので地元企業優先と言う話は無くなったと言われたのです。事務的に伝えられて、それっきりでした。14ページ渡る当時のwebのショット、30ページ以上の提案書、機能仕様書の下書き、それらの作業は当初の地元企業優先と言う方針を聞いたから行った物です。

無論、入札は公正な物であるべきです。新発田市役所は何も間違えていません。方針が入札直前で変わる事も問題ではありません。20代にキャノンの子会社のソフト会社に入社して、幾度も会社を立ち上げてきた経験の中でも一番不愉快な経験でした。

現在軌道に乗っている「国体のゴルフ競技 集計(5大会連続受注中)」は最初、新潟国体で新発田市からの発注でした。来年度の長崎大会は150万円で見積もっています。新発田では実績がないということで見積もりは75万円が出したのですが、結局は35万円に値引きすることになりました。確かに行政は少ない予算から運営しねばならないのですからこれも当然だと思っています。担当の方は非常に優秀でこの仕事できっかけで今に至る技術を得られたのですから感謝しています。しかし市の決定は残念でした。

発注先に対して「コスト削減のための値引き要求」は利潤を追求する企業ならば当然でしょう。しかし公共団体が無駄な箱物を建ててそちらにはいくらかでも税金を垂れ流しながら、地元の(立場の弱い)企業にはこういう態度をとるのはいかにかなものかと思えます。

私は「平野屋コンピューティング」という小さな企業の経営者です。「しばた」で大きな企業になりたいと思っています。この地に住む仲間を雇い、世界で戦っていきます。志を同じくする仲間の企業と共に未来を語りたく思います。私は商工会議所に入りたくとは思いません。新発田市の企業支援も受けたいとは思いません。「税金の無駄使いをやめてもらいたい」それが願いです。

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けていた側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です) 「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

地産地消の誤解

地産地消とはその土地のものを食べるということではなく、ともに生きることを決意した農家・商店・選択する市民の姿。

「地産地消」とは市民、農家、商店が「価格競争」

の圧力に打ち勝って「食」を共有するシステム

地元で作っている物を食べれば「地産地消」だと思っている誤解があります。1980年代からあらわになった『グローバリズム』は価格競争の圧力で一番安い物しか勝ち残れません。長野のレタスは日本で一番売っていますが、そこで労働に従事しているのはフィリピンなどからの「出稼」の人たちです。アメリカ製の大豆は強力な農業に生残れる遺伝子を組み換えた農作物です。そしてグローバリズムの波の中戦っている生産者は生き残るために消費者の安全など考えません。

食の安全は、地元の小規模農家と地元の商店に守られる!

農家と市民はポリシーを持った商店に結ばれて共に生きる決意を!

アスパラくんのブランド力はいかに!

ブランディングこそが価格競争に勝つ秘訣

アスパラガスの生産とグローバル市場の流通で「新発田のアスパラくん」はアドバンテージ(有利な立場)を得ています。これは大変良いことなのです。地元で苦勞して作り出された生産のノウハウが実を結びグローバルな市場でシェアを拡大は良いことです。心配な事は、大規模化(廃農の進行)、単一プランテーション化、農業に従事者にとって歓びになっているか?という事です。

常にグローバルな市場は「価格圧力」をうけます。どこかの産地がアスパラガスをもっと安い値段で出し始めたらどうなるのでしょうか?

ブランディングが重要

では、グローバルの市場に置ける「価格圧力」に勝つには何が必要でしょうか?

それこそがブランディングです。

もちろん言葉ではほとんどの商品が地産地消をうたっています(全ての商品が同じブランディングを行った時そこから価格競争になります)。

地元の小規模農家を尊重して地域自身が共に生きることを選択できるシステムこそが必要です。それを世界に発信していくことで「しばた」は本当の意味で地産地消の土地になるのです。「地産地消しばた」はグローバリズムの中で勝つための最強のブランディングなのです。

グローバリズムは、価格の奴隷! 偽装される「地産地消」

生産の側から

20年以上前から、五十公野農協婦人部では自分たちの作った作物を直販する朝市を開催しています。今ではいくつかの農協も同様の市を開催しています。彼女たちの活動には「離農、高齢化」が進む中でポリシーと一生をかけた農業への愛情が感じられます。確かに補助金を受けて大規模経営を指向するのはいいことなのかもしれません。しかしながら大規模化はグローバルな市場で価格圧力を受けて負ければ全て消えてしまいます。かつて新発田で「イチゴ栽培」での失敗の経験があったと聞きます。TPPに対応するためと称して、大規模化・単一作化は勧められていますが、グローバル市場で勝てるとは思えません。自殺行為としか見えません。

流通の側から

TPPが開始されようとする今、大手スーパーでは地元産をうたい、さも安全のように食品を売っています。多くの宅配業者も安産性を売り物にしています。

残念ながら、決して信頼出来るものではありません。

私達の町から、あれだけ多かった「八百屋、肉屋、豆腐屋」は消えていきました。

新発田商店街には何軒かの「八百屋、肉屋、豆腐屋」そして市内には何軒かの地元資本のスーパーが生き残っています。そこでは店主が直接に仕入れてきて、お客さんと会話を交わしながら商品を買ってくれます。

もっと市民の人たちにそういった商店を知ってもらいたいと思います。

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

Pilot:131103

共に生きる

地産地消とはその土地のものを食べるということではなく、ともに生きることを決意した農家・商店・選択する市民が共に生きる事。『人を守ってこそ自分が守られる』（七人の侍より）。

この地で生きる人々を結びつける選択。お客様が神様だった時代は終わり、「農家、商店、市民」が尊敬を持ち助け合う「しばた」を夢見る！

かつて、高度成長時代は市場経済（価格の安い物が勝つ）の全盛期でした。食の環境においても安いものを作れない生産者・流通者は「敗者」として葬り去られていきました。その結果グローバルイズムは勝利して大手スーパーやショッピングモール、コンビニエンスストアが「勝者」として市場を独占して「食の安全」は失われました。販売市場を制覇した巨大資本はますます利益を増大させるためにより安くて「安全でない」商品を仕入れて（他に買う手段を持たない）私達に売りつけます。キッチンスタジオなど作って税金を無駄使いしている場合ではないのです。

自給自足・地産地消都市「しばた」を目指そう！ すぐに全ては出来なくても、米や小規模農家の産物を地元商店で買う所から始めよう！

（完全に全ての作物の自給自足は無理だということは分かっています。けれども一歩一歩進みたいのです）

この広くて豊かな土地に私達は生を営んでいます。この大地に生きることの幸せを感じます。市民は「生産者、小規模スーパー、商店、八百屋、肉屋、豆腐屋」を守り守られます。互いに寄り添って生きていける「しばた」が私の夢です。

そしていつの日か全国と同じ志の都市と姉妹都市になり互いの作物を共有して、心を繋げられたら素晴らしい！



One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

多様な文化からなり豊かな「食」を生む「しばた」の中で私達は生きる。

韓国FTA 牛肉のお話

農業を守ることで自分たちの命が守られる

韓国では国内産の牛肉が1000円アメリカ産の牛肉が600円で買えます。今後FTA(米韓自由貿易協定)によってアメリカ産の牛肉は400円になります。しかし、圧倒的な消費者は1000円の国内産を買っているのです。国内の生産者は守られています。私は、ここに消費者と農家が互いに守り合う姿を見ます。私達も、選択することで農業を守り、自分が守られるシステムを創り上げることは夢ではありません。

大手スーパーも重要です、雇用を生んでいます。私達はもはやグローバルイズムの抜きには生きていけません。そしてノスタルジーは何も産みません。しかし、どこかに道はあるはずです。

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けてある側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ってしまうことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

市民の常識 議会の常識!

市民の皆さんと話をする「市会議員はなる人が決まっている。市長は土建会社が決めている。」そんな言葉ばかりです。その通りです。投票している市民の責任なのです。市民は自分たちにふさわしい政治家を得ることが出来るのです。

善意の陳情はすり替えられた!

駅前に図書館を建てるという陳情があったごとく駅前開発は始まりました。調べていくと、決してそのような事実はありません。

確かに、4-5年前、「駅に電車で高校生の居場所が無く、子どもが可哀想だ」と言う趣旨の陳情と「かつてあったような(小規模な)観光案内所を復活してもらいたい」という陳情がありました。(両方の陳情ともに採択されていません。)

陳情には「図書館」も「キッチンスタジオ」もどこにも載っていません。観光案内所を建築会社ビルに入れると言う陳情もありません。

善意の市民の陳情を言い訳に補助金を狙った図書館移設が生まれ、建築会社のビルには観光案内所が入ることになりました。

誰が市民の心をすり替えたのでしょうか?

ある人から「二階堂市長は長く議員を務めたから、ほとんどの議員の要望や弱点を熟知している」と聞きました。議会对策さえしっかりしていれば何でもできます。どの議員には「どんな利益誘導(地元への公共事業の割り振り)」を行えば自分の政策に賛成するか知っています。その手法は、賢く抜け目ない物です。その結果、議員は二階堂市長に賛成するのです。そして議員は地元への箱物誘導を行うことが出来ました。それが次の選挙での強さにつながると地方自治の研究者は言います。「箱物のパーティー」によってバブル期に日本中に箱物が建ちました。

確かに建設費は補助金で出るかも知れませんが、運用費は出ません。地域の活力が低下した時に致命的です。

今、使われない箱物の運用費や更新費用に日本中の自治体が苦しんでいます。夕張やデロイトだけでなく、いくつかの自治体が赤信号です。

議員は自分を選んでくれた市民の事とともに「新発田市全体」を考えることを期待されています。

本当に施策が市民の幸福を考えたものか熟考して、施策に対しての建設的な提案をしていかねばなりません。

市議会をもっと議論する場に!

二階堂市長と建築会社の為の市政に対する賛成反対一覧表

		H19.4.22	H23.4.24	
中村こう	無所属	2475票 当選	2750票 当選	賛成
大沼長栄	無所属	2475票 当選	2488票 当選	賛成
石山ようこ	公明党		2276票 当選	賛成
斎藤明	無所属	1684票 当選	2137票 当選	賛成
渡辺よしお	公明党	2119票 当選	2084票 当選	賛成
若月まなぶ	無所属		2079票 当選	賛成
井畑隆二	無所属	1633票 当選	1986票 当選	賛成
今田しゅうえい	無所属		1958票 当選	賛成
比企ひろまさ	無所属	1821票 当選	1946票 当選	賛成
湯浅さたろう	無所属		1834票 当選	賛成
小川とおる	無所属	1149票	1688票 当選	賛成
こさか博司	無所属		1675票 当選	賛成
青木泰俊	無所属	1351票 当選	1618票 当選	賛成
入倉なおさく	無所属	1603票 当選	1595票 当選	賛成
宮島信人	無所属	1332票 当選	1550票 当選	賛成
五十嵐孝	無所属	1507票 当選	1522票 当選	賛成
みやの昭平	無所属	1315票 当選	1507票 当選	賛成
さくまとしお	無所属	1044票	1439票 当選	賛成
小柳はじめ	無所属		1411票 当選	賛成
川崎孝一	無所属		1398票 当選	賛成
加藤かずお	共産党	1423票 当選	1385票 当選	賛成
佐藤武男	無所属	1526票 当選	1383票 当選	賛成
宮村ゆきお	共産党	1356票 当選	1374票 当選	賛成
わたなべ良一	無所属	1349票 当選	1337票 当選	賛成
長谷川けんきち	無所属	1380票 当選	1320票 当選	反対
いながき富士雄	無所属	1256票 当選	1304票 当選	賛成
佐藤ますみ	共産党	1539票 当選	1218票 当選	賛成
渋谷こうすけ	無所属	1312票 当選	1192票	
鳥海しゅんいち	無所属		385票	
高橋さちこ	公明党	2008票 当選		
二階堂かおる	無所属	1963票 当選	市長	賛成
渋谷まさのり	無所属	1653票 当選		
しづき武衛	無所属	1644票 当選		
宮崎よしお	無所属	1643票 当選		
伊藤ひさし	無所属	1513票 当選		
星野ゆきお	無所属	1460票 当選		
ほんま道治	無所属	1436票 当選		
森田くにあき	無所属	1393票 当選		
いわお昭夫	無所属	1315票 当選		
たかはし正春	無所属	1306票 当選		
はせ川清	日本共産	1123票		
木村としお	無所属	1078票		
五十嵐くにお	無所属	963票		
高木浩久	無所属	836票		
伊藤よしゆき	無所属	721票		
おさかべ秀雄	無所属	441票		
渡辺党	無所属	397票		
エダナミ諒作	無所属	136票		
竹内秀男	無所属	116票		



〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12
代表 齋藤真也 080-2049-3853
100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。
ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128
普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

まだ見ぬ仲間を信じて

私たち市民は互いに話し合うこともできず孤立しています。『ブレーキの無い自動車』と言われる様に行政はそれ自身では止まれません。市長、市議員は次の選挙の為に大企業の顔色をうかがいます。市民は毎日に忙しく、分断されて自分たちの未来を語り合うチャンスがありません。

市民不在の『駅前開発・市役所移転』は新発田の問題点を浮き彫りにしています。計画は議会で承認され建物は建ってしまいます。この「箱もの」を私たちの愚かさのモニュメントとして記憶しましょう。新発田がデトロイトや夕張の様にならない為に、子どもたちの為に、そしてこの地を愛する人々そして自分の為に今日も新発田を歩きます。



企業は人と良く言われます。

私は、市政も人と考えます。

この小論が、分断ではなく共感を、そんな事を考えながら書きました。
未来を夢見る市民が一人でも多くなれると信じています。

もう手遅れかもしれません。けど私には百年の時間があります。
いつの日か、市民が、真の代表者を選べる様になる事を信じています。

駅前開発、新庁舎が私たち市民の愚かさのモニュメントとならないこと
いがみ合いではなく、友愛と共感が私たちに生まれると信じています。

それこそが坪川洵平翁の「真理の光と栄光の道」です。
共に語り合い、見つけましょう。

これからの「百年しばた」と私

市民の皆さんと話をすると、多くの人に市長、市議会議員に立候補するように勧められたりもしました。選挙に担ぎ出したいという意向の方々もいらっしゃいます。私も「一期くらい市長をやってみたい。自分の手腕を試してみたい」とお話したこともあります。

今は迷いなく宣言します。「あらゆる公職に立候補しない、税金から報酬を得て何らかの仕事はしない（NPOなどの活動）企業から報酬を得て市の広報活動を行わない。」

「百年しばた」は市民の視線から行政を見て提言する運動です。共感してくれた皆さんと共にこの地で生きていきたいのです。私の会社（平野屋コンピューティング）は地元（新潟市も含まれます）の企業様からお仕事を頂いてソフト会社を営んでいます。そんな皆さんへの恩返しでこの活動を行っています。そして地元で元気な商店、企業、農家、市民が多くなることで私の会社も大きくなっていけると信じています。

市民の声を反映する市長・市議会議員立候補者と共に「しばた」を考える。

市民である限り、現実の政治（選挙）に対して関わりをもたざるを得ません。また、今は二階堂市長に賛成している議員も市民として市政を見つめていこうと考えるかもしれません（私はそれを望んでいます）。そして、緊張感ある議会になるためには政治とは関わりのない市民が立候補を考えることが必要です。市民として議会や市長に立候補する人々を応援します。選挙の戦い方、選挙事務所、戦略の立案などを共に考えます。

「百年しばた」は政党では有りません。主義主張を統一したり特定の目的の達成の為に縛ったりしません。また政党ではないので主体となって立候補者を出す事はありません。市民としての常識を持った立候補者を市民として応援します。皆さん自身、また友人の中から我こそはと思う方を応援します。常識をもった市長や市議会議員と共に未来を考えたいのです。「しばた」の市民であることを誇りに思い未来を夢見ましょう。

『鉛筆一本』キャンペーン 選挙を信じて、市民として投票しよう！

『鉛筆一本』とは嘉田由紀子滋賀県知事が後ろ盾無く選挙を戦った時のキャンペーンの言葉です。その後の「未来の党」時代にはトラブルに見舞われましたが、彼女の勇気と行動力には尊敬を禁じえません。男と女は同じ数だけいるのに、どうして議員や市長になる人は少ないのか不思議です。それが日本だと言ってしまえばそれまでですが、私はおかしいと思います。

私達は生活者（建築会社の社員、新発田ガスの社員、市の職員、市からの委託業務を受けているNPO）として生きると同時に、市民としてこの地に生きるのです。

会社の仕事として投票するのではなく、自分自身の心で百年の時を考え、一票を投じることの重要さを打ち出していきます。きっと世界は変えられると信じています。